

RYOICHI ENOMOTO EXHIBITION  
SEN(LINE)SATION  
2019.6.29(SAT)~9.29(SUN) 9AM~5PM  
Maebashi City Museum of Literature



アート、デザイン、映像製作、雑誌編集：様々なジャンルを横断し、その多面的な才能を発揮し続ける「榎本了吉」。  
萩原朔美館長が出会った表現者たちを取り上げるシリーズの第二弾として、クリエイティブ・ディレクター、プロデューサーである榎本了吉氏を紹介いたします。榎本氏は、寺山修司を通して萩原館長と出会い、ともに雑誌『ピックリハウス』を創り上げてきました。今回は榎本氏の近年の大作である、濫澤龍彦の著作『高丘親王航海記』をもとに製作された「高丘親王航海記」シリーズから最新作までを展示紹介いたします。

「spiral girl」2018

私が出会った表現者たち II

榎本了吉「線セッション」展

2019年6月29日(土)~9月29日(日)

観覧時間：9時~17時(入館は30分前まで) 休館日：水曜日 / 会場：3階オープンギャラリー / 観覧料：無料

協力：ATAMATOTE international Design By Ryoichi Enomoto + Mariko Sakaguchi

展示

絵画作品 / 書写作品  
「スパイラルガール」「バベルの島」  
「高丘親王航海記」ほか  
映像作品  
「高丘親王航海記」(10分)  
アイデアスケッチ  
「脳業手技」より

トークショウ

8月17日(土)14時~  
何が?「線セッション」だ!  
榎本了吉×萩原朔美



萩原朔太郎記念・水と緑と詩のまち

前橋文学館



「バベルの街の女神」2019



「バベルの島」2018

榎本了壺 RYOICHI ENOMOTO 自己紹介  
 了壺は、一番了(おわ)りという意味。5人兄弟の末っ子。1歳で左利きと断定。3歳で異常な偏食発覚。5歳で小児ぜんそく発症。10歳で近視確認。12歳で天才自認、各種創作活動開始。16歳で二科展最年少入選。19歳で詩集『粘液質王国』上梓。20歳で普通の人の宣言。21歳、武蔵野美術大学在学中より草月アートセンター『季刊 FILM』編集デザイン、演劇実験室・天井棧敷にかかわり、恩師・粟津潔と「渋谷天井棧敷館」をデザイン製作。『季刊』地下演劇編集デザイン担当。22歳、『蛭螂姫物語』台本担当(モフティエモフティエ舞踏会)で第1回舞踏批評家協会賞受賞。24歳、映画『書を捨てよ町へ出よう』(寺山修司監督)美術担当。同年、天井棧敷ヨーロッパ公演に美術監督として参加。25~26歳、パリに滞在して映像個展、雑誌特派記者として取材活動。26歳、萩原朔美と月刊『ピクリハウス』を創刊、『ピクリハウス SUPER』、『BH』編集長。サブカルチャーのウェーブを形成する。1980年より1999年まで「日本グラフィック展」「オブジェ TOKYO 展」「URBANART」をプロデュース。以降、デザイン、編集、出版、文化イベント、博覧会パビリオン・プロデュースなどの仕事を展開。2006年より京都造形芸術大学教授・情報デザイン学科長。2013年より濫澤龍彦の『高丘親王航海記』の書写を始めて全文完書。2015年より同作の絵画作品化を開始。2016年にggggで個展開催。近年、時間が許す限り筆先8ミリの超面相筆で絵画製作に時間を費やす。主に線で描くので「線セッション」。かいぶつ句会同人。日本文化デザインフォーラム理事・副代表幹事。株式会社アタマトエ・インターナショナル代表。1947年、東京都生まれ。



「バベルの穴」2018



**トークショー「何が? 「線セッション」だ!」** 榎本了壺 × 萩原朔美  
 2019年8月17日(土) 14:00開演(開場13:30)  
 前橋文学館 3階ホール / 先着100人 / 400円(展示観覧券付)  
 \*7月7日(日) 9:00より電話で受付(027-235-8011)

**「羽の生えた想像力—阿部智里」展**  
 2019年7月20日(土)~10月14日(月・祝)  
 前橋文学館 2階展示室  
 一般400円(朔太郎展示室もご覧になれます。)  
 高校生以下無料 / 障害者手帳をお持ちの方とその介護者1名無料

**アーツ前橋 展覧会情報**  
 山本高之とアーツ前橋のビヨンド20XX: 未来を考えるための教室  
 7月19日(金)~9月16日(月・祝)  
 TEL 027-230-1144 <http://www.artsmaebashi.jp/>

**アクセス(交通案内)**  
 電車 JR前橋駅から徒歩約20分 / 上毛電鉄中央前橋駅から徒歩5分  
 自動車 関越自動車道 / 前橋ICから車で約15分  
 ※広瀬川サンパワーカーキング(市営P城東)のご利用に際しては、駐車券に割引処理をいたします。



榎本了壺



萩原朔美

萩原朔太郎記念・水と緑と詩のまち

## 前橋文学館

〒371-0022 群馬県前橋市千代田町三丁目12-10  
 TEL.027-235-8011 FAX.027-235-8512  
<https://www.maebashibungakukan.jp/>